

(由利地域振興局)

平成28年度知事と県民の意見交換会概要

テーマ：農業と他産業との地域連携による産業振興を目指して

日 時：平成28年8月1日（月） 10：00～12：15

場 所：農事組合法人平根ファーム 集出荷所

※意見交換会に先立ち、矢島木材乾燥株式会社及び園芸メガ団地を視察。

(知事あいさつ)

知事というのは、情報はいろいろと入るが、やはり現場に行けば現場を支えている皆さんのお話が一番参考になる。まずは皆さん方からどんなことをやっているか、どういうところに課題があるか、どういうことを望む、どういうことを目指す、そういう中で私も県が何をやっていくか、あるいは県がどういうことを支援ができるか、あるいは直さなければならない、そういうところをお聞きして、持ち帰って各部局等と協議して政策に反映していく。今日は忌憚のない意見をお聞きしたいので、よろしくお願ひしたい。

(司会)

今年は中山間地と言われる鳥海・矢島地域において、「農業と他産業との地域連携による産業振興を目指して」というテーマを設定した。高齢化等で地域の労働力が低下する中、状況をしっかりと見極めて、一緒に地域興しを進めていきたいということから設定したものだ。自己紹介を兼ねながら現在の取り組みや課題などをお話いただきたい。

【参加者自己紹介】

(A氏)

平根ファームは、地元の基盤整備を契機に平成26年に立ち上げた。最初は稲作中心、将来的にはメガ団地、去年はこの施設の建築と準備に費やした。今年から本格的に小菊1ha、りんどう1ha、アスパラ1ha作付けして先週から出荷が始まったところである。

園芸団地ができて雇用が必要となってきた。将来的にはまだまだ雇用がいる。夏は農業でいいが、冬期間の雇用が一番大きな課題。

(B氏)

地域の特産である肉牛の繁殖に取り組んでいる。規模をもう少し大きくしたい。

(C氏)

20年ほど前からトルコ桔梗とか小菊など花き栽培を始め、10年ほど前からりんどうも作付け始め、雇用もある程度入れるようになった。雇用することにより規模を拡大できるのは地域の人にも喜ばれ、良かったと思っている。

夫が倒れ仕事ができない状態だが、10年来雇用してきた人達が皆やってくれ、同じ規模でこなすことができた。

雇用も大切、若い人の同居も大切だと今痛感している。若い人達がこの鳥海町に定住できるような対策を考えてほしい。

冬場は小菊をやり、苗は自分で作っている。また、冬は女性たちで加工グループを作っ

て、年中少しずつ収入を得ながら頑張っている。

(D氏)

昭和24年に創業。鳥海山のブナ材でフローリング材を作っていた。現在は、秋田の杉を使い、年間約4千立方メートルくらい利用している。主に公共施設をやってきたが、少子化で文教施設も減ったため、今後は民間と海外を同時にやっていく。

社員は45名くらいで平均年齢が約37歳くらい。海外相手となると人材が必要だが、なかなか来ない。

2年前にペレットも作るようになった。県内にあまり需要が無く70%を県外に出している。陸前高田の椎茸栽培にペレットを使っているので、秋田でも冬場検討してはどうか。

(E氏)

社員24～25名で林業をしながら水稻、りんどうを始めた。地域の雇用に貢献したい。

(F氏)

建設会社を経営しながら森林組合理事、集落営農組織代表をやっている。

自分たちの組織は17人くらい、22～23町歩の経営。法人化に向け準備中だが、田は貸すが自分でやるという人がいない。それは収入が一番問題。

枝豆は価格の変動が極端で、1箱3,500円から700円まで落ちる。箱代も出ない。選別は、地域高齢者に小遣い程度でやってもらい喜ばれているが、こちらは大変な状況。出荷ものに対しては最低制限を設けるとか、県に課題の検討に入れてもらいたい。

(G氏)

3年前に、空き家を活用して障害者施設「くるみの里」を作った。現在、利用者が20歳から37歳まで11名いる。ほとんどが知的障害。

主な活動としては畑作業。2反歩の畑を無料で貸してもらい、17種類の有機野菜を作っている。野菜の半分以上が自分達の給食に使い、余ったものは自前の直売所で販売して利用者の工賃にしている。

親元を離れて通える環境を作るため、空き家を活用してグループホームを作ったが、秋田県はグループホームの防火と耐震の基準が大変厳しい。空き家の活用で雇用も生まれるので、何か施策をしてほしい。

先週は平根ファームで一週間働いた。ここの出荷用段ボールは、ほとんど利用者の皆さんが折ったもの。

【意見交換】

(司会)

「労働力の確保」、「冬場の雇用対策」の二つの視点で話を進めていきたい。まず1つ目の「労働力の確保」について。

(C氏)

近所のお母さん達主体で雇用している。今年から20代後半の男の子が入った。個人的な経営なので少人数で間に合っているが、平根ファームさんのように大規模になるとかなりの雇用も必要になるだろう。近場に働き手がないことは、本当に大変なことだ。若い人方が近場で働きながら、家の仕事しながら、ちょっと手の空いた時に他の仕事も手伝える

ような、そういう環境が整ってきたらいいと思う。

冬場の除雪や除雪費・暖房費が大変で、若い人は雪の少ないところに出て行ってしまおう。過疎地域の特別手当のようなものでもあれば若い人が出て行かないのかと思う。

(司会)

最盛期の雇用人数は。

(C氏)

4月から4人体制で来ている。その人数でできるように、りんどうはお盆向けより少し早めに最盛期が終わるように調整し、今は小菊が最盛期で、今日も4人で収穫作業をしている。

(司会)

その4人は春から秋までずっと？

(C氏)

日曜日を除いて、ずっとお願いしている。

(司会)

その雇用の数に応じてやらざるを得ない部分もあると。

(C氏)

そうです。

(B氏)

牛の場合でも同じだが、24時間365日気を抜く時間が無く、急に何かあっても身動きできなかったが、ヘルパー制になり仲間同士で補っていけるので非常に楽になった。ヘルパー制度をますます充実していけば畜産農家の減少に歯止めがかかるのではと思う。現在も大変な支援をいただいているが、引き続き支援を継続していただきたい。

(司会)

人手がないという中で、障害者の方が働くことについてどうお考えか。

(G氏)

障害者も必ず能力は伸びる。ただ、個人差が非常に大きいので支援が必要だ。

(司会)

農業と福祉の連携は初めて？

(G氏)

初めて。

(知事)

全県で有効求人倍率が一番低いのがここ（本荘由利管内）。昔で言えば、由利地域は他

の地域から比べれば憧れの的だった。メーカーさんがあり、結構な待遇で。だから、まず工場に行って、農業は副（業）に考えている、そういう風潮が無きにしてもあらずかなと思う。

中山間地は、そう極端な法人化はなかなかできないと思う。その中でどうするか。畜産はどうか。今は子牛が高い。

（B氏）

子牛が高くていいが、買うとなるとなかなか。県からだいぶ助成を受けている。

（司会）

今、何頭飼っているのか？

（B氏）

今は10頭。昭和48年から事業を始めたが、一時縮小した経緯がある。もう2～3頭は増やしたい。

（知事）

保険制度だとか単純な価格補填というのは全国のことなのでなかなか難しい。米の生産調整が終わるとい状況の中で、まず米をどうするかということが一番で、米以外のところをどうしていくか。野菜の補償はどうなっているか。

（司会）

指定野菜が対象。花きはない。

（A氏）

指定野菜とは、アスパラ？

（由利農林部職員）

品目は今分らないが、基本的に食卓に上るような野菜が指定されている。

（司会）

Fさんのところは一般建設業ということで、農地保全、農地が荒れてくるとい話が結構あるようだ。そのことについて。

（F氏）

中山間事業で草刈り等はやっているが、田んぼから下の田んぼまで5～6mの落差がある田んぼで、面積が例えば1反5畝といっても作付面積は5畝しかないなど。そういう田んぼを維持していくには、中山間の支援だけではできない状況の中にある。部落一つで4分の1くらいしか作付けしていないところもあり、後継者がいてもそこまで手が回らない。TDK関連工場など建物の中で仕事している後継者だから、外の仕事がやれない。知事の言ったことは、尤もなこと。由利本荘市が大変なのはその点。自分のうちの田んぼがあっても、若い人が手を掛けないから「集落営農に任せる」となる。それをなんとか若い人の気が向くように、いろんな面で探っている。

ソバを転作に蒔いている。乾燥地の場合は、結構フキをやっている人が多いと聞く。

こういう状態で現在は管理できているが、今管理している人たちは70歳近いので、ここ4～5年の間にどうなるか不安である。

(司会)

二つ目の「冬場の雇用対策」について。

夏場の出荷が基本的だと思うが、雪の降った後が大変だという話、除雪が大変だという話、なかなか仕事がない状態でもあるが、そういった冬場の話をお願いしたい。

(A氏)

雪中アスパラを考えているが、それだけの収穫があるのか、これまた一つの問題。

ほかに、今年からハウスを利用して苗木を作ったらどうかと計画を進めている。せっかく夏に来てくれる方々を通年で雇いたい。

(知事)

同じ由利でも平場と中山間地がすごく違う。気候も金浦の方にいけば、一番早く春が来る。農業と人手のやり取りも、あちらは工場中心だが、こちらはそうでもない。非常に由利は特殊。

ここはハウスは全体的にどうか？

(由利農林部職員)

ここは少ない。

(知事)

平鹿はあれだけ雪が降っても平場だから、全部ハウスが建っている。

(A氏)

この辺りはハウス栽培をしていけば、珍しいと言われる。

(知事)

県北はペレットを使う。こういう所（ファーム作業場）でペレットを使ってる所が多い。

(D氏)

ペレットは、県外には需要がたくさんあるが、地元は少ない。うちは低コストで製造できるので、わざわざ運賃をかけて遠いところに持って行くより、地元で使ってもらった方が絶対に良い。冬場にハウスなどやるところがあれば、是非うちのを使っていたきたい。

(知事)

モデル事業をやるとなれば、最初の設備投資があるから、ある程度すぐ支援してリスクを少なくしながら事例を作れる。うまくいけば、これは真似する人が出てくる。

(A氏)

横手平鹿のハウスは、除雪費、暖房費に見合っただけの収入があるのか。

(知事)

横手平鹿は、ハウスが道路端。除雪がいない。そこが中山間地と違う。問題は何を作るか。

由利の冬場の働き口は、観光関係が弱い。冬に観光客が来るところがあれば、そこに夏場の労働力がぱっと出る。冬場の乳頭温泉郷などで働いているのは、農家。そういう意味では、いろんなところが連鎖する。

(司会)

Eさん、冬場も含めてこれから何か？

(E氏)

冬場、空き校舎を利用して水耕栽培ということ考えた。清水の里という素晴らしい水もあり、その水を利用してやったらどうかと。少しでも地域の皆さんに貢献できると思って始めたが、問題が山積した。まず、できたものをどうするか、販売ルートがない。とりあえず今年は断念する結果となった。どうか県が道筋をつけるようやってくれればと思っている。

(司会)

その辺、県も市もJAもみんな、壁をクリアできるように相談して…。

(知事)

いま、水耕栽培でうまくいっているところは全部コンビニ。コンビニとセットで東京の会社が秋田で水耕栽培をやっているところがいっぱいある。古い学校だとか、公共施設の使わないところ。東京の会社がどんどん来る。はじめにコンビニと組んでおいて、売り先も決まっている。

(E氏)

そういう状況であればできるが、我々はそこまで行かなかった。

(知事)

先行しているところは、東京の売り先を先に探している。それから契約する。由利本荘のコンビニの弁当、サンドイッチなどは地元の会社で作っている。東京と契約しても納める場所は全部地元。

なぜ水耕栽培のレタスカ。今のコンビニは、露地物は使わない。洗わないといけないから。それから露地だと、どういう成分が入っているか全部検査しなければならない。水耕栽培は、水溶液栽培だから洗わなくていい。

(A氏)

全く無農薬だから、そのまま…。

(知事)

検査らない。すぐ使える。だから、露地物は使わない。

(E氏)

その問題のところ、県の方でなんとか解消できないか？

(知事)

ローソンは自前で、地元の人と一緒に作ったり。どういうルートなのか、もう少し検討して…。

(A氏)

やっぱり、先手を打たなければならない。

(知事)

障害者施設の空き家の活用について、空き家の規制はどこが？福祉か？調べておいて。

(司会)

後で確認する。

(G氏)

水耕栽培は、全県的に空き家も空き校舎もあり、成功すれば冬の産業としてすごいことになる。

(知事)

由利工業が自分のところで空き工場全部、TDKの下請けで何社かやっている。

(知事)

今、銀座で蜂蜜をやっている。銀座のビルの屋上で蜂蜜。

(F氏)

どこから集めてくるのか？

(知事)

東京は木がいっぱいある。皇居とか。あとは、地下で水耕栽培。LEDで。空きビルで野菜作っている。

(知事)

話を聞いて同じ秋田でも違うなと思ったところは、元々の産業構造が違うから高校生の働くところは工業、工場に行く。特にTDKなど。TDKさんの下請けが不景気になって職業斡旋しても、同じような電気の工場に行きたいという。他の職種を勧めても、なかなかうんと言わない。ところが、仙北だとかは何もないから、割とあそこの後継者はスッと農業に行く。そこら辺が由利本荘は非常に違う。

ペレットは完全に県北。県北は熱源必要な工場が多い。ニプロがすごい工場を作る。そのために北秋容器が、ペレット専用プール作った。ただ、遠くから運べばコスト掛かる。

(D氏)

地産で、こことかで使ってもらえるようにしてもらえればいい。

(知事)

小さくてもいいから地産地消型で、ある程度中山間地向けのハウス、そういうのも良いかもしれない。最初は小さく、実験的に。ある程度人を使って。モデル事業で、矢島（木材乾燥）さんとこのチップを使ってもらって。

あまり大きくやって失敗すれば責任問題だが、まず小さくやってみて。やっぱり成功例を作らなければ、前に進まない。メガ団地も同じ。

農業後継者は全体的には大変なこと。ただ、その一方で農外から入ってくるものがある。どういう訳か増えてきている。たまたま都会から鹿角の大湯に遊びに来て、温泉でおじいさんと話したら後継者がいないことを聞いて、後継者になった人がいた。

県外からの農外後継者について、地域イメージは関係ある。観光地に来る。観光で売れているところは知名度があるから。由利本荘も、農業と観光を結びつけて。特に食物関係は観光と結び付くことによって、ずっと広がる。

この間、タイに秋田牛を持って行った。シンガポールにも行ってじゅんさいも売れた。知名度を活かして、それで秋田牛にした。東京に行って由利牛と言っても分からない。秋田と言えば秋田県って分かる。それと東京には頭数。頭数がなければ、東京の競りに入れない。

(秘書課職員)

先ほどの価格補償の話について。国の制度以外に県の事業で24品目くらいある。花も、りんどう、輪菊、トルコギキョウ等あるので、ぜひ使っていただきたい。なお、あまり少なければ掛け金も高くなり、地域全体でまとまってやるところもあるようなので、振興局や農協に相談願う。

(司会)

本日はどうもありがとうございました。

(終了)